

①事業の基礎情報

事業名	子どもと大人のパートナーシップ 推進事業		担当部・ グループ名	こども未来部 文化スポーツグループ						
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度		担当 GL 氏名	岡島 正明						
新規・継続の別	継続事業		電話番号(内線)	52-1111(内線 300)						
総合計画 (基本計画) 体系	個別目標	(5)地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	予算書上の 事業名	款	10款 教育費					
	こんなことに取り組みます	子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取り組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。		項	5項 社会教育費					
				目	4目 青少年育成・活動支援費					
	みんなで目指すまちづくり 指標名	子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合			事業名	1 青少年健やか育成振興事業				
現状値 (H25)	45	実績値 (H26)	45	実績値 (H27)		実績値 (H28)		目標値 (H29)	51	(単位) %

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	・子どもにおいては、子どもたち自身が自らの権利を理解・認識し、主張できるような自我の確立を目指す。 ・大人においては、子どもの権利を認識し、それを守る意識の向上を図る。		
対象(誰・何を対象に)	市民	対象の数量	46,202 人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	全ての高浜市民が、「たかはま子ども市民憲章」の趣旨を理解し、子どもと大人が市民として、互いの意思と力を尊重し、理解を深め合う関係になる。		

③事業にかかる事業費概要

平成 26 年度 (当初)		決算		主な内容
事業費総額 (千円)		72	57	・消耗品費 43 千円 (笑顔の写真展事業費) ・報奨金 14 千円 (4コマ漫画作成謝礼)
財源内訳	一般財源	72	57	
	特定財源	国・県支出金	—	
		その他	—	
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業	



▲笑顔の写真展

④平成 26 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	①子どもと大人の関係を考える委員会を開催した。	H26.4 ~H27.3	4回
	②子ども市民憲章普及啓発冊子を配布・設置した。	通年	
	③広報に、子育て・子育て支援情報に関する4コマ漫画を連載した。	通年	広報毎月 1日号掲載
	④CAPワークショップを開催した。	H26.4~12	39講座
	⑤笑顔の写真展を開催した。	H26.10~11	広報掲載
進捗状況	当初に掲げた計画通り、順調に進めることができた。		
実施内容に対する成果 (事業の自己評価)	☆笑顔の写真募集について、昨年度の応募数は38点と数が落ち込んだことから、募集内容や条件を見直した。その結果58点の応募があった。		
	☆子どもと大人の関係を考える委員会は、年度内で4回実施した。		
	☆CAPワークショップは、6園での実施があり、延べ253人が参加した。		
	☆四コマ漫画は、年度を通じて1日号広報に掲載した。		



⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 26 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<p><u>(1) 子ども市民憲章の普及啓発方法のマンネリ化</u></p> <p>・子ども市民憲章制定 10 年を経過したことから、普及啓発方法について再考する時期にきている。現在の市の実態に合わせていかなければならない。</p>	<p>・本来、保育園や幼稚園、4歳児健診、いちごプラザなど、親子がふれあう現場の中で、普及啓発を図るほうが効果的である。所管グループを含めて考え直したい。</p>



⑥課題解決に向けた平成 27 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに (年月)
計画(案)	/	
特記事項	<p>・所管グループも含めて、事業がより効果的に進められるよう検討しなければならないため、平成 27 年度はアクションプランから除外する。</p>	